

第4回 クラシエ 漢方講演会 i n 静岡 WEB中継 浜松サテライト会場

拝啓

時下、先生方におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

この度、下記の要領にて漢方勉強会を行う運びとなりました。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、是非ともご参加頂きたく御案内申し上げます。

敬具

日時 平成 27年 11月 4日 (水) 19:15~21:00

※ 当日はお弁当のご用意がございます。

会場 TKP浜松アクトタワー カンファレンスセンター カンファレンスルームC

浜松市中区板屋町 111-2 浜松アクトタワー 25F

TEL 054-413-0798

情報提供

19:15 『クラシエ漢方製剤のご紹介』

クラシエ薬品株式会社 医薬学術部

演題

19:30

『八味地黄丸とその関連処方を理解し使いこなす工夫』

座長

東新田福地診療院

院長 福地 康紀 先生

講師

つちうら東口クリニック

院長 川嶋 浩一郎 先生

主催 クラシエ薬品株式会社 中日本医薬支店 担当：宮本 康次

TEL：054-653-7586

Mobile：070-2189-7404

第4回 クラシエ 漢方講演会 i n 静岡
WEB中継 浜松サテライト会場

FAX：054-253-5763

御出席

御欠席

御施設

御芳名

川嶋先生より - 講演要旨 -

八味地黄丸は補腎薬の代表処方と言われながら、日本人に広く使おうとすると胃もたれや胃痛を起こす場合が多く、使いにくい処方だと思われがちです。その一因は、日本の胃腸薬使用量が世界一と言われ、胃の不調を訴える患者が多いからだと思われます。漢方薬は方証相対で、処方毎に適した病態像が明確に規定されていますから、その病態である証を正しく把握することが大切です。

今回は、八味地黄丸のエキスパートになっていただくことを目標として講演を準備させていただきます。まず、漢方の基本的な考え方である陰陽五行の層構造についてお話しいたします。この理解によって、細胞レベル、組織レベル、臓器・器官レベル、全身レベルの各々に対して、補腎治療を考えることによって八味丸の応用範囲が広がります。

次に、八味地黄丸を構成する個々の生薬の働きについてお話しいたしたいと思います。これを知っておくと、関連処方との鑑別や、効果の期待できる症状を推測できるようになりますから、いつまで使えば良いのか、効果が不十分な場合には処方を切り替えるべきか、何かと併用すれば良いのかなど、治療過程の様々な場面での判断材料としてとても有用です。

こうして漢方の考え方と個々の生薬を理解した上で、八味地黄丸の証である全体像を把握していただければ、八味地黄丸の理解が深まり使いこなせるようになると思います。

近年、悪性腫瘍を始めとして様々な慢性疾患が、先天的な遺伝子の脆弱性というだけでなく、エピジェネティクスと呼ばれる環境性遺伝子修飾によって、遺伝子の読み出し不調をきたして、生活習慣病や癌やうつ病が発症、悪化することが示されつつあります。ストレスで脳神経のDNAがメチル化（遺伝子不活化）してうつを発症し、SSRIに脱メチル化作用があるという報告もあります。一昔前までは、できあがった体質は改善不可能と思われていましたが、エピジェネティックな変化は成人以降にも起こりうるということが知られるようになって、体質は日々変化する可能性が示されました。

漢方では、腎に先天の元気が宿り、寿命をつかさどると言われます。補脾・補腎して後天と先天の元気を補えば、新陳代謝を改善し、様々な細胞の再生を促すことが知られています。これはエピジェネティクスが良い方向に働いたと考えて良いのではないのでしょうか。つまり、近い将来、漢方で体質改善できる科学的根拠として、エピジェネティクスと漢方の関連性が明らかになるかもしれません。ストレス医学を得意とする漢方薬を長期に活用することで、様々な疾患へ良い影響を及ぼし、健康寿命を延ばすことができるのではないのでしょうか。八味地黄丸に関する様々な文献や症例を通して、この処方の理解を深め、活用の道を探ってみたいと思います。



川嶋 浩一郎 先生
1981年 筑波大学医学群医学類 卒業
1985年 筑波大学心身障害学系講師
茨城県立こども病院神経科非常勤（現在も継続）
1992年 西荻司ビルクリニック開設
1998年 つちうら東口クリニック開設、現在に至る

【会場案内】

